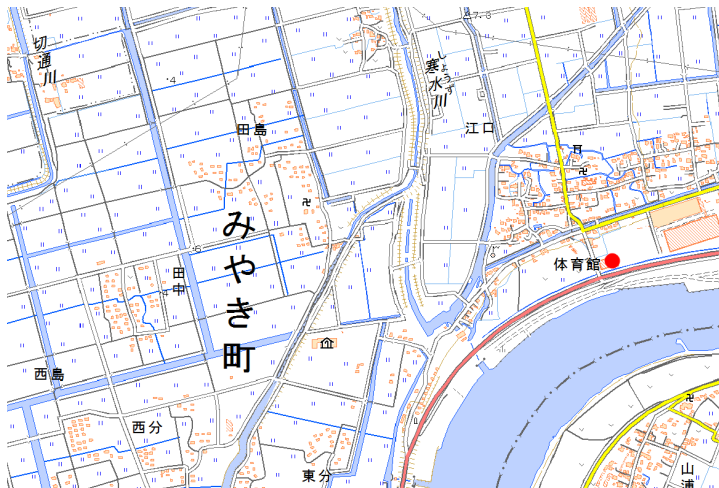


番号	110	昭和２８年筑後川大洪水時の浸水深の表示		
所在地	みやき町江口５１２８－１　みやき町北茂安体育館入口壁面			
災害別	昭和２８年（１９５３）　水害（２８水）			
目的別	その他		建立年	不　明
特記事項	（参考）筑後川災害復旧記念の碑			



筑後川沿いのみやき町北茂安体育館入口壁面に掲示されている昭和28年6月水害時の浸水深の表示板。この水深であれば体育館の1階は完全に水没する。そのため、この体育館は災害時避難場所に指定されているものの、水害時は除くということになっている。





国土地理院電子国土 Web



なお、昭和28年水害による筑後川沿岸の被害状況やその後の復旧工事については、久留米市高野の国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所に建つ「筑後川災害復旧記念の碑」に詳しく記されているので参考までに掲載する。

(参考) 筑後川災害復旧記念の碑 久留米市高野 筑後川河川事務所

「昭和二十八年六月二十五日より五日間北九州一帯を襲った豪雨は最大日雨量四三四ミリメートル連続雨量一、一四九ミリメートル瀬下水位九メートルに及び大正十二年以来三十年間営々として築き上げた筑後川の治水工事は全体計画の七割五分を終えていたのに堤防は至る所溢水破堤筑紫平野は一面泥海となる惨状を呈し浸水面積五三、〇〇〇町歩被害額四五〇億円に達した 国直轄河川の災害も破堤二六か所延長七・三キロメートルその他

決潰崩潰等一〇〇か所を超えた

災害発生後管内はもちろん他地方建設局の応援を得て直ちに泥海の中に緊急工事に着手し幾多の悪条件を冒して日夜碎励した 時あたかも田植期ではあり梅雨末期の出水に備え破堤か所の応急締切工事を施し引続き台風期を目前にひかえてこれら応急堤の重要部に補強を行ったが幸い天候に恵まれ順調な本復旧工事が移行昭和三十年三月完成の日を迎えた

この災害復旧工事は築堤延長四〇キロメートルその土工量一五〇万立方メートル護岸延長六〇キロメートルその面積三四万平方メートルでありこれに要した資材は主なものだけでもセメント三四、〇〇〇トン木材五一、〇〇〇石及び鋼材四七〇トンの外割石玉石一七

四、〇〇〇立方メートル等莫大な数字となり労務者延二五〇万人工費二〇億円に達した

穀倉と呼ばれ豊穡を誇る沿岸一帯は一夜にして見渡す限り冠水あるいは流失埋没し青田は砂原と変り父祖伝来の沃土は永遠に地上よりその姿を消すのかと危ぶまれたのであるが各方面の涙ぐましい復興への意欲と努力とによって今や当時の惨状を思い起こすよすがすらなく肥沃なる平野は再び母なる筑後川に潤おされかつ育くまれている

水害は河川の恩恵を忘れ天への感謝の念を怠った頃にやって来よって今後ますます川を愛護し天を敬い筑後川治水百年の大計を果す改修工事完成に向って絶えざる力を尽すことを誓うものである

ここに災害復旧工事の概要を述べこの感懷を永く世の識者にわかつたために碑を刻む

昭和三十年三月三十一日

九州地方建設局

筑後川工事事務所長 田中寛二



国土地理院電子国土 Web